



Jリーグチーム状況とFC岐阜の現状

JリーグにはJ1に18チーム、J2に22チーム、J3に18チーム全部で凌ぎを削っています。

25年前にJリーグ(日本プロサッカーリーグ)が発足した時には、10社の大企業のクラブチームばかりでしたが、川淵三郎初代チェアマンの慧眼で、クラブ名は企業名ではなく地域名にすることに決定し、広く地域社会と連携して社会貢献を行なうことで皆様から親しまれ愛されるクラブを多くして、世界のトップレベルのリーグを目指そうということでスタートしました。

今ではJリーグに加盟し、チームのない都道府県は、宮崎県、島根、高知県、和歌山県、奈良県、滋賀県、福井県、三重県だけです。何れも日本サッカー協会加盟の夫々の広域地域リーグそしてJFLでの好成績を経て、先ずはJリーグのJ3への昇格を目指しており、年々その戦いも熱くなっています。

どの地域でも高齢化社会でのスポーツの効用に注目しており、サッカーが中心メニューの一つになっており、相乗効果が大いに期待されるところです。

経営的には主たるスポンサー企業によって支えられている大企業の子会社型チーム、地方自治体と多くの企業スポンサーで支えられている地域型チームに二分されています。地域型チームの弱点は、スポンサー集め＝資金集めにあり、チーム順位、景気変動や入場者数などによってスポンサー数やスポンサー金額など大きく変動するリスクがありますが、FC岐阜は5年前の営業収入が5億円規模から11億円に増加して財政的に厳しい状況から脱してきました。

今後はより強いチームを目指し、新たなスポンサーやファンを増やして営業収入を増強し、J1昇格を目指して参りますので、どうぞご理解を賜りますようお願いいたします。

また、一方では大きな課題であった固定の練習場を利用することも、岐阜市様や岐阜市サッカー協会の皆様の絶大なるご尽力のお蔭で、2020年2月には岐阜市西北部運動公園にもう一面の練習場が完成する予定です。より一層練習に専念できる環境になり感謝に堪えません。

今後は更に皆様の誇りのチームになれるよう頑張っておりますので、より多くのご来場をお待ち申し上げます。



写真：©Kaz Photography/FC Gifu